



2024年12月期 第2四半期（中間期）決算短信〔IFRS〕（連結）

2024年8月9日

上場会社名 株式会社KeyHolder 上場取引所 東
コード番号 4712 URL <https://www.keyholder.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大出 悠史
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 (氏名) 柴野 光平 TEL 03 (5843) 8888
半期報告書提出予定日 2024年8月9日 配当支払開始予定日 ー
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年12月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年1月1日～2024年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年中間期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前中間利益		中間利益		親会社の所有者に帰属する中間利益		中間包括利益合計額	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年12月期中間期	14,150	△0.3	561	△64.7	530	△65.9	387	△68.8	499	△59.8	390	△68.4
2023年12月期中間期	14,190	60.7	1,590	22.1	1,556	3.5	1,240	3.4	1,241	2.4	1,234	2.4

	基本的1株当たり 中間利益	希薄化後1株当たり 中間利益
	円 銭	円 銭
2024年12月期中間期	26.59	26.59
2023年12月期中間期	66.32	66.32

(2) 連結財政状態

	資産合計	資本合計	親会社の所有者に 帰属する持分	親会社所有者 帰属持分比率
	百万円	百万円	百万円	%
2024年12月期中間期	31,007	20,008	20,396	65.8
2023年12月期	27,215	19,519	19,957	73.3

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年12月期	—	0.00	—	20.00	20.00
2024年12月期	—	0.00	—	—	—
2024年12月期（予想）	—	—	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年12月期の連結業績予想（2024年1月1日～2024年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上収益		営業利益		親会社の所有者に 帰属する当期利益		基本的1株当たり 当期利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	32,000	16.3	2,400	22.1	2,200	4.0	117.41

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更：有
新規 1社 (社名) 株式会社 I O A N T Z

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更

- ① IFRSにより要求される会計方針の変更：有
② ①以外の会計方針の変更：無
③ 会計上の見積りの変更：無

(注) 詳細は、添付資料P. 15「2. 要約中間連結財務諸表及び主な注記(5)要約中間連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年12月期中間期	18,967,410株	2023年12月期	18,967,410株
② 期末自己株式数	2024年12月期中間期	147,323株	2023年12月期	492,181株
③ 期中平均株式数(中間期)	2024年12月期中間期	18,785,030株	2023年12月期中間期	18,727,935株

※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 6「1. 当中間決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	6
2. 要約中間連結財務諸表及び主な注記	8
(1) 要約中間連結財政状態計算書	8
(2) 要約中間連結損益計算書及び要約中間連結包括利益計算書	10
(3) 要約中間連結持分変動計算書	12
(4) 要約中間連結キャッシュ・フロー計算書	13
(5) 要約中間連結財務諸表に関する注記事項	15
(継続企業の前提に関する注記)	15
(会計方針の変更)	15
(セグメント情報)	16
(重要な後発事象)	18

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境が改善する中で、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、景気が持ち直していくことが期待されております。しかしながら、全世界的な情勢への不安感や不透明感がみられる中で、物価の上昇や金融資本市場の変動、供給面での制約等による景気の下振れリスクに十分注意する必要があります。先行きは予断を許さない状況であります。

当社グループにおける、各事業を取り巻く環境も日々変化しており、一般消費動向の影響を受け易い事業も一部あるものの、機動的に必要なかつ十分な対策を行うこととしております。

このような中、2023年11月13日付け「子会社(株式会社ノース・リバー)による株式会社10ANTZの株式一部取得による当社の孫会社化に関するお知らせ」のとおり、株式会社ノース・リバー(以下「NR」という。)が主にゲームアプリの企画・開発・運営等を行う株式会社10ANTZ(以下「TA」という。)の株式の51%を2024年1月1日付けで取得しており、今後も積極的な投資活動による当社グループの更なる収益規模の拡大及び強化に向けた展開を図ってまいります。

また、昨年新設いたしましたbijoux株式会社(以下「BJ」という。)による、大型の新人発掘オーディションを開催し、約7,000名のご応募の中から選出された33名のファイナリストによりまして、3月20日に最終選考会が開催されグランプリを含めて、9名が各賞に決定しております。グランプリを含めた各賞受賞者のうち、すでに5名の新人が当社グループ内に所属し、それぞれデビューに向けた準備をしておりますので、今後にご期待いただければと思います。

総合エンターテインメント事業では、大型イベントの開催やライブ・ツアーなどのほか、その他のタレントにつきましても、ドラマや各種番組への出演等、積極的な活動を展開いたしました。

映像制作事業につきましては、既存の番組制作の進捗のほか、特番放送されていた番組がレギュラー化されたことに加え、ドラマ制作や参画した映画製作案件が公開されるなど順調なほか、海外を含めた動画配信プラットフォーム向けの映像制作を行っております。

広告代理店事業につきましても、インターネット広告事業及びインターネットメディア事業を中心に各種継続案件を着実に積み上げることで売上強化に努めております。

各事業の詳細につきましては、後述のセグメント別概況にて記載しております。

以上の結果、当中間連結会計期間における業績は、売上収益14,150百万円(前年同期比△0.3%)、営業利益561百万円(前年同期比△64.7%)、税引前中間利益530百万円(前年同期比△65.9%)、親会社の所有者に帰属する中間利益499百万円(前年同期比△59.8%)となりました。

営業利益以降につきましては、前年同期比で大幅なマイナスとなっておりますが、こちらは売上原価率の上昇に伴い売上総利益が245百万円減少していることならびに、持分法による投資利益が421百万円減少していることに加え、BJの稼働に伴う先行費用の計上や、TAのグループインに伴う当該会社の中間損失229百万円が主な要因となっております。

なお、持分法による投資利益は乃木坂46合同会社に紐付くものであり、主な減少要因といたしましては、政府・行政機関により実施されていたコロナ禍に係る各種補助金制度に伴う収入が前年同期比で大幅に減少していることのほか、イベントや興行等において消費ニーズの向上に伴う物販等の収入が想定を上回り、例年に比べて非常に好調であった前年同期との比較において減少していることによるものであります。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

<セグメント別概況>

〔総合エンターテインメント事業〕

(ライブ・エンターテインメント部門)

同部門につきましては、株式会社ゼスト(以下「ゼスト」という。)及びNRならびに株式会社A.M. Entertainment(以下「AME」という。)が、アーティストやタレント、スポーツ選手などのマネジメントを行っております。当社グループの主要アーティストの主な活動内容は以下のとおりであります。

アーティスト名	実施時期	内容：備考欄
SKE48	1月12日～ 3月26日	派生ユニット「プリマステラ」4都市10公演
	1月27日	TBS「STU48の7ならべ×SKE48の大富豪はおわらない!合同ライブ」
	2月3日	Hello Music Festival 2024 in TOKYO
	2月27日	TBS「PLAYLIST」
	2月28日	32nd シングル「愛のホログラム」リリース 3月7日付けのオリコン週間合算シングルランキングで、通算9作目の合算シングル1位獲得となり、女性アーティストによる「合算シングル通算1位獲得作品数」記録を女性アーティスト歴代3位タイから歴代単独3位とした。
	3月8日	フジテレビ「オールナイトフジコ」
	4月8日	プリマステラ iLIVE! vol.12
	4月15日	NHK WORLD-JAPAN「J-MELO」
	5月5日	Hello Music Festival Theater&ライブ
	5月16日	佐藤佳穂 1st ソロライブ
乃木坂46	1月25日～27日	34th シングルアンダーライブ 3公演
	3月7日～10日	12th YEAR BIRTHDAY LIVE 4公演
	3月18日	TBS「CDTV ライブ!ライブ!」
	3月22日	テレビ朝日系「MUSIC STATION」
	3月29日	日本テレビ系「バズリズム」
	4月6日	NHK「Venue101」
	4月10日	35th シングル「チャンスは平等」リリース。4月16日発表の最新「オリコン週間シングルランキング」で初登場1位を獲得し、34作連続・通算34作目のシングル1位に。
	5月11日、12日	山下美月卒業コンサート
	6月7日～9日	35th シングルアンダーライブ 3公演
6月28日	香港ライブ	
Novel bright	1月21日	FUKUOKA MUSIC FES.2024
	2月21日～ 3月12日	NOVELCITY CARNIVAL Vol. 4 3都市3公演
	3月7日	4月3日リリースのMajor 3rd Full Album「CIRCUS」に収録されている新曲「Awesome Life」が、アサヒグループ食品「ミンティア」のCMソングに決定
	3月16日	めざましテレビ30周年フェス in 東京
	3月27日	4月3日にリリースされるMajor 3rd Full Album「CIRCUS」収録曲「Sensation」が、サッポロビール(株)の新商品「サッポロ WITH BEER ホワイトエール」のタイアップソングに決定 6月には「Sensation」(WITH BEERコラボレーションMusic Video)が公開
	3月30日	SAPPORO MUSIC EXPERIENCE 2024
	4月6日～	Novelbright LIVE TOUR 2024
	4月28日	Otomeshi Festival.2024
	5月3日	JAPAN JAM 2024
	5月12日	OSAKA METROPOLITAN ROCK FESTIVAL 2024
	5月19日	TOKYO METROPOLITAN ROCK FESTIVAL 2024
	6月22日	GREEN FLASH FES 2024

そのほか、当社グループに所属するアーティストやタレントの活動においては、2023年12月末でSKE48を卒業した「江籠裕奈」が1月1日よりソロ活動を開始したほか、ゼスト及びAME所属の「e t-アード-」や「若月佑美」、「小栗有以」、「生駒里奈」、「鈴木絢音」、「古畑奈和」、「まるり」などが、ドラマや各種イベント、情報番組への出演のほか、アニメや企業とのタイアップなど、様々な場面において活躍の場を増やしております。

(デジタル・コンテンツ部門)

同部門につきましては、主にT Aが、アイドルとの恋愛疑似体験ができる恋愛シミュレーションゲームアプリの企画・開発・運営を行っております。リリースから8周年を迎えた乃木坂46公式の「乃木恋」や、日向坂46公式の「ひなこい」、櫻坂46公式の「サクコイ」など、坂道シリーズ唯一の公式ゲームアプリ等に係る業務を行っております。

以上の結果、総合エンターテインメント事業の業績は、売上収益7,045百万円(前年同期比+19.1%)、セグメント利益809百万円(前年同期比△52.1%)となりました。なお、T Aのグループインに伴い売上収益は増加しているものの、前述のとおり、売上原価率の上昇に伴う売上総利益の減少のほか、コロナ禍に係る各種補助金制度に伴う収入が前期比大幅に減少したことを主な要因とする持分法による投資利益の減少に加え、B Jの事業活動に伴い先行費用の計上やT Aにおいて中間損失を計上したことなどにより、前年同期比では大幅な減益となっております。

[映像制作事業]

同事業につきましては、株式会社UNITED PRODUCTIONS(以下「UP」という。)及び株式会社m a c a r o n iが既存の人気バラエティ番組や、所属アーティストのMVの制作のほか、ドラマ制作、映画製作委員会への出資及び製作を行っております。映像制作における、主な成果(レギュラー化やドラマ、映画製作等)は以下のとおりであります。

分類	放送・公開 開始日等	番組名(補足)
バラエティ	1月4日	テレビ朝日「とみおたち」(特番)
	1月6日	NHK総合「有吉のお金発見 突撃!カネオくん」(新春SP)
	1月7日	TBS「オールスタードッキリ祭」4時間SP(特番)
	1月9日	フジテレビ「今夜はナゾトレ川柳四天王2024VS新世代!川柳下剋上SP!
	1月16日	TBS「THE神業チャレンジ」2時間SP
	2月9日	Netfli xコメディシリーズ「トークサバイバー!〜トークが面白いと生き残れるドラマ〜」のシーズン3が制作決定。制作プロダクションとして参画。
	3月13日	テレビ東京「何を隠そう…ソレが!」(特番)
	3月19日	テレビ東京「何を隠そう…ソレが!」が4月24日(水)からレギュラー化決定。
	3月24日	J:COM「花火のギモン」(特番)
	4月6日	TBS「オールスター感謝祭2024春」5時間半SP(特番)
	5月29日	フジテレビ「FNS鬼レンチャン歌謡祭」3時間半SP(特番)
ドラマ	1月26日～ 3月29日	TBSドラマ「不適切にもほどがある!」放送
	4月13日～ 6月16日	テレビ朝日「あなたの恋人、強奪します。」放送
	4月6日～	WOWOW「TOKYO VICE」シーズン2配信開始。7月には、ロケーションにおける世界的な賞のひとつ「第11回LMGI Awards」にノミネートされる。
	5月31日	ドラマ「不適切にもほどがある!」第61回ギャラクシー賞テレビ部門特別賞を受賞!
映画	3月8日～ 公開終了	映画「マイホームヒーロー」全国公開

その他にも、既存のバラエティ番組をはじめ、年始特番を多数制作しており、積極的に受注を獲得し、着実に実績を積み上げております。

株式会社TechCarry(以下「TC」という。)で展開しております、番組制作等でプロの技術者が使用する機材レンタル事業やデジタル事業につきましては、着実に実績を積み上げております。また、昨年までTCにて行っておりました映像編集作業を行うポスプロ事業につきましては、UPのポスプロ事業部と事業統合し順調に推移しております。

制作スタッフの派遣事業につきましては、派遣先である映像制作会社の状況に伴って、体制強化に伴う費用が増加しており、利益率が下がっている状況にはあるものの、引き続き堅実に実績を積み上げております。

以上の結果、映像制作事業の業績は、売上収益3,063百万円(前年同期比△4.5%)、セグメント利益75百万円(前年同期比△43.9%)となりました。なお、レギュラー番組では好採算案件等が増加しており、売上収益では堅調に推移しているものの、人件費の増加に伴う利益率の悪化や、前年同期に設立しておりますTOKYO ROCK STUDIO株式会社(以下「TRS」という。)に紐づく海外案件やドラマ及び映画製作等の大型案件を獲得するための先行費用を計上し

ていることに加え、当該案件の稼働が当初の予定からズレ込んでいることなどにより、前年同期比で減益となっております。

〔広告代理店事業〕

株式会社FA Projectにて展開するデジタル広告部門では、インターネット広告事業及びインターネットメディア事業を展開しており、男性用脱毛サロンやフィットネスジム、ゴルフレッスンスクール等の顧客獲得の実績を積み上げており、クライアントの要望に基づく広告案件を、YouTube等の動画配信プラットフォームを中心としたSNS媒体向けに制作するほか、アフィリエイト広告等の戦略的な広告展開を図っております。

株式会社allfuz(以下「AF」という。)にて展開する広告代理店部門につきましては、特に株式会社セブンイレブン・ジャパンが展開しているセブンネットショッピングにおいて、年間を通して様々な取り組みを実施しております。広告代理店における、当中間連結会計期間における実績となった主な実施案件は以下のとおりであります。

EC販売・キャンペーン等開始日	案件名
2023年10月6日	CANADA GOOSE 新店舗オープンイベントキャストイング (窪塚洋介) (内田理央) (塩野瑛久)
2023年10月19日～	QVC出演キャストイング (松本明子)
2023年11月1日～	全日本大学バスケットボール選手権のオフィシャルサポーター就任(僕が見たかった青空)
2023年11月22日～	KOSE「MAKE KEEP MIST」SNS広告(小栗有以)
2023年11月24日～	「RESEXXY」WEB企画キャストイング(中尾暢樹)
2023年12月21日～	KOSE「MAKE KEEP MIST」広告動画(小栗有以)
2023年12月22日～	CROSS×RIVER PRODUCTION オフィシャルグッズ
2023年12月25日～	純烈 marimani 第1弾セラミックかっさ販売
2024年1月4日～	「CHINTAI」の新CM 他(僕が見たかった青空)
2024年2月20日～	小栗有以 オリジナルバスソルト付きカレンダー(予約開始)
2024年2月21日～	TOKYO INDIE GAMES SUMMIT 2024 グッズ販売(予約開始)
2024年2月23日～ 3月31日	LIVE EMPOWER CHILDREN 2024 コンテンツプリント
2024年3月29日～	Bistro NAOTO

※販売開始時期やキャンペーン開始時期を問わず、当中間連結会計期間の積み上げ案件を列挙しております。

※広告代理店部門におきましては、相手先企業との契約上の兼ね合いから公表できる案件名は少なく、上記実績はその一部となります。上記のほか、有名スポーツ選手を起用したテレビCMに関する案件、スポーツ競技や各種イベント、著名アーティストの協賛に関わる業務、行政機関や各企業、学校法人等からの依頼案件において実績を積み上げております。

以上の結果、広告代理店事業の業績は、売上収益3,985百万円(前年同期比△20.5%)、セグメント利益66百万円(前年同期比△49.7%)となりました。なお、売上収益につきましては、第1四半期でご説明しておりますとおり、デジタル広告分野における需要が減少する時期的な影響が想定よりも大きかったことで、第1四半期の前年同四半期比で大幅な売上収益の減少となっていることに加え、既存広告代理店においても、主要広告クライアントとの取り組み内容につきまして、好採算案件の獲得が順調であったものの、第1四半期の減少幅を圧縮するには至っておりません。

〔その他事業〕

同事業につきましては、当社において不動産賃貸事業を展開しており、売上収益56百万円(前年同期比+10.6%)、セグメント利益24百万円(前年同期比+113.5%)となりました。

なお、増加要因としましては、株式会社トポスエンタープライズが所有する投資不動産を取得したことに伴い、当該投資不動産の賃貸収入により売上収益、セグメント利益が増加しております。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び資本の状況

当中間連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末に比べて3,792百万円増の31,007百万円となりました。これは主として投資不動産及びその他の金融資産が増加したことによるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べて3,303百万円増の10,999百万円となりました。これは主として社債及び借入金、営業債務及びその他の債務、未払法人所得税等及び契約負債が増加したことによるものであります。

資本につきましては、前連結会計年度末に比べて488百万円増の20,008百万円となりました。これは主として自己株式の処分により増加したことによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間における連結ベースの現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ1,503百万円減少し3,580百万円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、789百万円の資金の増加(前年同期比+58.5%)となりました。これは主として営業債務及びその他の債務の減少により資金が減少した一方、税引前中間利益の計上に加え、契約負債の増加及び法人所得税等の還付により資金が増加したことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、3,797百万円の資金の減少(前年同期は828百万円の資金の増加)となりました。これは主として利息及び配当金の受取があった一方、投資不動産の取得、被担保債権の取得及び連結範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、1,504百万円の資金の増加(前年同期は405百万円の資金の減少)となりました。これは主として利息及び配当金の支払、長期借入金の返済、リース負債の返済により資金が減少した一方で、自己株式の売却及び長期借入れによる収入により資金が増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年12月期における通期連結業績予想につきましては、売上収益を32,000百万円、営業利益を2,400百万円、親会社の所有者に帰属する当期利益を2,200百万円と見込んでおります。

なお、当中間連結会計期間末における対計画値に対する進捗率は軟調傾向にあるものの、既に開示等により公表しておりますとおり、株式会社トポスエンタープライズのスポンサー支援及び第三者割当の引受けに係る一連の動向及び当該取引等に係る会計処理による業績への影響度合いが未確定であることから、現時点におきましてはお示ししている通期連結業績予想の計画値からの変更はございません。

直近では、7月1日付けで国内エンターテインメントの充実をはじめ、イベントを通じた集客及び音楽産業の発展を目的として、AFが株式会社Awardとの間で、海外アーティストの招致及び興行の展開を主力事業に据え、イベントプロデュース事業、コンテンツプロデュース事業、広告代理・デジタルコンテンツ事業などを展開する、HMFJ合同会社の設立につきお知らせしております。各セグメント別の取り組み事項は以下のとおりであります。

〔総合エンターテインメント事業〕

ライブ・エンターテインメント部門につきましては、所属アーティスト・モデル・俳優・タレント・スポーツ選手等の様々な活動を通して、多くのファンの皆様にご支援いただけるプロダクション運営を行ってまいります。

2024年12月期第3四半期における大型イベントの開催予定等につきましては、乃木坂46は「真夏の全国ツアー2024」を5年ぶりとなるドームツアーとして、京セラドーム大阪・バンテリンドームナゴヤ・明治神宮野球場の3か所計7公演の開催を予定しているほか、8月21日に36thシングル「チートデイ」をリリース予定としております。SKE48は、日々の劇場公演の開催のほか、7月6日から6都市14公演を行う「SUMMER TOUR 2024」を開催しているほか、8月には8期生による「SKE48 8期生8人の8周年コンサート♡ばちばちばーちい♡」の公演も予定しております。また、第4四半期に該当するものの、10月2日に33thシングル「告白心拍数」のリリースも予定しております。Novelbrightにつきましては、4月6日の北海道を皮切りに全国25都市27公演を廻る「Novelbright LIVE TOUR 2024～CIRCUS～」がスタートしており、8月9日時点までに23公演を開催しております。10月5～6日の両日には「Novelbright LIVE TOUR 2024～CIRCUS～FINAL」として、ヴォーカルである竹中雄大の故郷、姫路市のシンボルである姫路城にて同バンドとしては過去最大規模となる3万人規模の公演を予定しております。

タレント等につきましても、俳優としての評価が上がっている若月佑美や生駒里奈、小栗有以のほか、舞台などへの出演で評価を高めている古畑奈和や、アーティストとしてソロ活動をする江籠裕奈に加え、声優として4月1日からソロ活動を開始した谷真理佳、7月1日以降には、SKE48を卒業した高畑結希や北野瑠華がソロ活動を開始しております。また、TikTokのフォロワー数700万人を誇る元ハンドボール選手の土井レミイ杏利が、フジテレビ系の「パリオリンピック2024」メインサポーターに就任する等、複数の所属アーティスト、タレントが活躍の幅を広げております。また、BJが3月20日まで開催しておりました、新人発掘のオーディションにおいてグランプリを受賞した秋好美桜など、計5名が当社グループへ所属するなど、引き続き次世代のIP発掘と育成にも注力してまいります。

デジタル・コンテンツ部門につきましては、乃木坂46や日向坂46、櫻坂46の全坂道グループのスマートフォン向けのゲームアプリの企画・開発・運営を手掛け、プラットフォーム事業や映像・IP事業、デジタルマーケティング事業なども多角的に展開しているTAが既存アプリ運営事業を継続する傍ら、今後はその開発リソースと、当社グループにおける自社IPコンテンツ及び映像制作など、既存事業とのグループシナジーによる新展開及び発展を図り、更なる事業規模の拡大に努めてまいります。

〔映像制作事業〕

現在の主流であるバラエティ番組では、企画・制作力を活かして、「千鳥の鬼レンチャン(フジテレビ)」や「イタズラジャーニー(フジテレビ)」「熱狂マニアさん!(TBS)」など、引き続きレギュラー番組16件の制作に携わっております。これらの実績が放送各局でも評価されており、新たに「何を隠そう…ソレが!(テレビ東京)」が、特番から4月24日よりレギュラー化されており、着実に実績を積み上げております。そのほか、全世界190カ国以上で配信されているNetflixコメディシリーズ「トークサバイバー!〜トークが面白いと生き残れるドラマ〜(Netflix)」のシーズン3の制作決定及び制作プロダクションとして引き続き携わることも決定しております。

映画製作及びドラマ制作につきましては、内山拓也監督の商業長編デビュー作となる「若き見知らぬ者たち」が10月11日より全国公開されることに加え、UP所属の監督が製作を務めたテレビ東京「ひだまりが聴こえる」が7月3日から放送を開始しております。

新規事業の分野では、TRSがグローバルスタンダードな映像制作現場のバックオフィス業務を担う制作経理業務及びグローバル向け作品の企画・制作を進めており、直近におきましては、アメリカのMax(旧HBO Max)とWOWOWが共同製作している「TOKYO VICE」のシーズン2に関する業務を行っており、4月6日より放送・配信が開始されていることに加え、映像制作の業界において重要視されるロケーション選定に係る世界的な賞である「第11回LMGI Awards」にノミネートされるなど着実な実績を積み上げると共に、高い評価を受けております。

今後も業況に合わせた社内体制や予算管理体制の更なる強化を図り、映像制作におけるノウハウと人材派遣で培った多くの制作会社や各放送局、各種配信プラットフォーム等とのリレーションを活かし、安定的かつ高品質の制作案件を継続的に手掛けると共に、グローバル向け作品の企画・制作を推進することで、更なる収益構造の強化を目指します。

〔広告代理店事業〕

デジタル広告部門におきましては、YouTube等の動画配信プラットフォーム向けの広告案件を手掛けることにより、TikTokやInstagram、Facebook、LINE Ads Platform等、広告媒体としての活用度に広がりを見せているデジタル広告プラットフォームに対して、インターネット広告事業及びインターネットメディア事業に関する事業を引き続き展開していくほか、TAが展開している、プラットフォーム事業や映像・IP事業、デジタルマーケティング事業等の実績に基づくグループシナジーによる広告案件の受注戦略をとるほか、不動産業界や金融業界等の新たな事業分野への積極的な展開によって、引き続き業容の拡大を図ってまいります。

広告代理店部門におきましては、前期実施した大手証券会社等における大型広告案件の継続のほか、引き続きセブン-イレブン・ジャパンを中心に優良案件を獲得していくことに加え、AFが資本参画しておりますアイドルグループ「僕が見たかった青空」が2024年6月15日に結成1周年を迎えており、7月11日～21日まで開催している同グループ初舞台「夏霞～NATSUGASUMI～」の公演や、10月25日より全国公開予定の劇場アニメーション「がんばっていきまっしょい」の主題歌に、同グループが歌う「空色の水しぶき」が決定するなど、引き続き広告代理店及びマーチャンダイジングの部分で大型の広告案件を含めた各種活動をサポートしてまいります。

また、既存のグループ内コンテンツを活用した各種イベントの企画・提案・運営を行っており、商業施設におけるライブ開催や、SNSとの連動企画等を通して、様々な企業との取り組みを月間2～5本実施しており、引き続き積極的な展開を図ってまいります。

今後につきましても、イベントの企画・提案・開発のほか、企画に基づく商品企画のマネタイズもできる等、クライアントの要望を一手に引き受けられるノウハウを背景に、大手企業やスポーツチーム、著名アーティスト等とのタイアップを行い、グループの強みを生かした積極的な営業戦略によって、大小を問わず様々な案件に携わることで、事業規模の拡大に努めてまいります。

〔その他事業〕

不動産賃貸事業につきましては、引き続き安定した運用を行ってまいります。

本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づくものであるため、実際の業績や市場環境は、今後様々な要因によって変更となる可能性があります。

2. 要約中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 要約中間連結財政状態計算書

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当中間連結会計期間 (2024年6月30日)
資産		
流動資産		
現金及び現金同等物	5,084,034	3,580,152
営業債権及びその他の債権	3,651,230	3,971,991
その他の金融資産	987,390	578,534
棚卸資産	386,769	575,410
その他の流動資産	231,197	272,126
流動資産合計	10,340,622	8,978,214
非流動資産		
有形固定資産	937,604	934,725
のれん	5,218,852	6,364,099
無形資産	1,571,345	1,443,833
投資不動産	934,961	2,812,306
持分法で会計処理している投資	7,042,877	7,407,892
その他の金融資産	699,641	2,412,889
繰延税金資産	317,144	516,847
その他の非流動資産	152,287	136,834
非流動資産合計	16,874,715	22,029,429
資産合計	27,215,337	31,007,643

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当中間連結会計期間 (2024年6月30日)
負債及び資本		
負債		
流動負債		
営業債務及びその他の債務	3,195,710	3,520,632
社債及び借入金	881,502	1,089,073
その他の金融負債	642,872	602,649
未払法人所得税等	25,594	222,030
引当金	99,757	163,077
契約負債	319,850	708,395
その他の流動負債	292,729	404,838
流動負債合計	5,458,017	6,710,697
非流動負債		
社債及び借入金	1,081,517	3,051,584
その他の金融負債	690,691	772,409
長期従業員給付	178,504	189,971
引当金	151,956	162,044
繰延税金負債	135,086	112,761
非流動負債合計	2,237,756	4,288,771
負債合計	7,695,774	10,999,469
資本		
資本金	92,450	92,450
資本剰余金	14,667,114	14,664,171
自己株式	△440,809	△132,079
その他の資本の構成要素	73,945	77,468
利益剰余金	5,564,566	5,694,469
親会社の所有者に帰属する持分合計	19,957,267	20,396,480
非支配持分	△437,703	△388,306
資本合計	19,519,563	20,008,174
負債及び資本合計	27,215,337	31,007,643

(2) 要約中間連結損益計算書及び要約中間連結包括利益計算書
(要約中間連結損益計算書)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
売上収益	14,190,235	14,150,933
売上原価	11,660,876	11,866,790
売上総利益	2,529,359	2,284,142
販売費及び一般管理費	1,938,365	2,296,052
持分法による投資利益	996,025	575,015
その他の収益	11,267	17,327
その他の費用	7,476	18,996
営業利益	1,590,810	561,436
金融収益	4,348	6,880
金融費用	38,229	37,426
税引前中間利益	1,556,928	530,889
法人所得税費用	316,885	143,616
中間利益	1,240,043	387,273
中間利益の帰属		
親会社の所有者	1,241,954	499,407
非支配持分	△1,911	△112,134
中間利益	1,240,043	387,273
1株当たり中間利益		
基本的1株当たり中間利益	66.32	26.59
希薄化後1株当たり中間利益	66.32	26.59

(要約中間連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
中間利益	1,240,043	387,273
その他の包括利益		
純損益に振り替えられることのない項目		
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金 融資産	△5,123	3,523
純損益に振り替えられることのない項目合計	△5,123	3,523
税引後その他の包括利益	△5,123	3,523
中間包括利益	1,234,919	390,796
中間包括利益の帰属		
親会社の所有者	1,236,831	502,931
非支配持分	△1,911	△112,134
中間包括利益	1,234,919	390,796

(3) 要約中間連結持分変動計算書

前中間連結会計期間(自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)

(単位:千円)

	資本金	資本剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素	利益剰余金	親会社の所有者に帰属する持分合計	非支配持分	資本合計
2023年1月1日時点の残高	92,450	14,660,367	△94,655	86,597	3,645,088	18,389,847	△395,376	17,994,471
中間利益					1,241,954	1,241,954	△1,911	1,240,043
その他の包括利益				△5,123		△5,123		△5,123
中間包括利益合計	—	—	—	△5,123	1,241,954	1,236,831	△1,911	1,234,919
新株予約権の行使				△440		△440		△440
剰余金の配当					△188,365	△188,365		△188,365
自己株式の取得		△866	△203,291			△204,157		△204,157
自己株式の処分		4,760	38,360			43,120		43,120
その他の資本の構成要素からの利益剰余金への振替				6,500	△6,500	—		—
所有者との取引額合計	—	3,893	△164,931	6,060	△194,865	△349,842	—	△349,842
2023年6月30日時点の残高	92,450	14,664,260	△259,586	87,534	4,692,177	19,276,835	△397,287	18,879,548

当中間連結会計期間(自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)

(単位:千円)

	資本金	資本剰余金	自己株式	その他の資本の構成要素	利益剰余金	親会社の所有者に帰属する持分合計	非支配持分	資本合計
2024年1月1日時点の残高	92,450	14,667,114	△440,809	73,945	5,564,566	19,957,267	△437,703	19,519,563
中間利益					499,407	499,407	△112,134	387,273
その他の包括利益				3,523		3,523		3,523
中間包括利益合計	—	—	—	3,523	499,407	502,931	△112,134	390,796
連結子会社の増加による非支配持分の増加						—	162,151	162,151
剰余金の配当					△369,504	△369,504		△369,504
自己株式の取得			△1,849			△1,849		△1,849
自己株式の処分		△2,297	310,579			308,281		308,281
支配継続子会社に対する持分変動		△645				△645	△619	△1,265
所有者との取引額合計	—	△2,942	308,729	—	△369,504	△63,717	161,531	97,814
2024年6月30日時点の残高	92,450	14,664,171	△132,079	77,468	5,694,469	20,396,480	△388,306	20,008,174

(4) 要約中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間利益	1,556,928	530,889
減価償却費及び償却費	484,885	557,284
受取利息及び受取配当金	△2,760	△1,392
支払利息	21,490	27,461
持分法による投資損益(△は益)	△996,025	△575,015
固定資産除却損	0	13,620
純損益を通じて公正価値で測定する金融商品の公正 価値変動	16,776	5,307
営業債権及びその他の債権の増減額(△は増加)	△823,240	175,089
棚卸資産の増減額(△は増加)	△131,788	△183,593
営業債務及びその他の債務の増減額(△は減少)	600,538	△193,086
契約負債の増減額(△は減少)	83,260	268,005
預り金の増減額(△は減少)	△41,145	△40,277
引当金の増減額(△は減少)	111,609	56,545
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	24,976	11,466
その他	△15,452	△21,634
小計	890,051	630,671
法人所得税等の支払額	△488,456	△30,966
法人所得税等の還付額	96,412	189,793
営業活動によるキャッシュ・フロー	498,006	789,498
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額(△は増加)	△40,000	450,000
有形固定資産の取得による支出	△54,288	△42,796
無形資産の取得による支出	△400	△670
投資不動産の取得による支出	—	△1,885,577
投資有価証券の取得による支出	—	△3,000
投資有価証券の売却による収入	100,190	—
出資金の払込による支出	△13,997	△47,175
敷金保証金の差入による支出	△133,104	△7,162
敷金保証金の回収による収入	156,008	102,065
資産除去債務の履行による支出	△2,065	△23,050
利息及び配当金の受取額	792,760	371,392
被担保債権の取得による支出	—	△1,548,092
事業譲受による収入	17,298	—
連結範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△1,017,553
持分法で会計処理している投資の取得による支出	—	△160,000
その他	6,447	13,888
投資活動によるキャッシュ・フロー	828,849	△3,797,731

(単位:千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(△は減少)	—	△2,341
長期借入れによる収入	850,000	2,353,000
長期借入金の返済による支出	△601,949	△452,160
社債の償還による支出	△14,000	△14,000
自己株式の取得による支出	△203,291	△1,849
自己株式の売却による収入	—	309,841
利息及び配当金の支払額	△195,091	△359,457
リース負債の返済による支出	△282,813	△325,873
新株予約権の行使に伴う収入	42,680	—
その他	△875	△2,810
財務活動によるキャッシュ・フロー	△405,342	1,504,350
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	921,513	△1,503,882
現金及び現金同等物の期首残高	4,538,770	5,084,034
現金及び現金同等物の中間期末残高	5,460,284	3,580,152

(5) 要約中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

当社グループの要約中間連結財務諸表において適用する重要性がある会計方針は、以下を除き、前連結会計年度に係る連結財務諸表において適用した会計方針と同一であります。

また、当中間連結会計期間の法人所得税費用は、一部の子会社を除き、見積年次実効税率を基に算定しております。

当社グループは、第1四半期連結会計期間より、以下の基準を適用しております。

IFRS		新設・改訂の概要
IAS第1号	財務諸表の表示	負債の流動又は非流動への分類に関する要求事項を明確化 特約条件付の長期債務に関する情報の開示を要求する改訂
IAS第7号 IFRS第7号	キャッシュ・フロー計算書 金融商品：開示	サプライヤー・ファイナンス契約の透明性を増進させるための開示を要求する改訂
IFRS第16号	リース	セール・アンド・リースバック取引の取引後の会計処理を明確化

上記基準書の適用による要約中間連結財務諸表に与える重要な影響はありません。

(セグメント情報)

(1) 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会等が経営資源配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものがあります。

当社グループは、当社及び当社の連結子会社を基礎とした業種別のセグメントから構成されており、「総合エンターテインメント事業」、「映像制作事業」、「広告代理店事業」の3つの事業セグメントを報告セグメントとしております。

各報告セグメントの概要は以下のとおりであります。

- 「総合エンターテインメント事業」：タレント及びアイドル等の芸能プロダクション運営・管理
イベントの企画・運営及びイベントスペースの運営・管理
ゲームアプリ事業など
- 「映像制作事業」：各種映像コンテンツの企画・制作
映像制作スタッフの養成及び派遣など
- 「広告代理店事業」：タレント・アーティスト等のキャスティング
デジタル広告及びプロモーションの企画・開発
インターネット広告事業及びインターネットメディア事業など

(2) セグメント収益及び業績

当社グループの報告セグメントによる収益及び業績は以下のとおりであります。
なお、セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

前中間連結会計期間(自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			
	総合エンターテインメント事業	映像制作事業	広告代理店事業	計
売上収益				
外部収益	5,916,028	3,208,110	5,015,314	14,139,453
セグメント間収益	26,864	1,886	98,484	127,235
合計	5,942,893	3,209,996	5,113,798	14,266,688
セグメント損益(注)3 (営業利益)	1,690,776	134,864	132,226	1,957,867

金融収益

金融費用

税引前中間利益

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	連結
売上収益				
外部収益	50,782	14,190,235	—	14,190,235
セグメント間収益	—	127,235	△127,235	—
合計	50,782	14,317,471	△127,235	14,190,235
セグメント損益(注)3 (営業利益)	11,447	1,969,314	△378,504	1,590,810

金融収益 4,348

金融費用 38,229

税引前中間利益 1,556,928

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に不動産事業であります。
2. セグメント損益の調整額△378,504千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント損益は、要約中間連結損益計算書の営業損益と調整を行っております。

当中間連結会計期間(自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			
	総合エンターテインメント事業	映像制作事業	広告代理店事業	計
売上収益				
外部収益	7,045,191	3,063,958	3,985,613	14,094,763
セグメント間収益	35,395	7,973	83,202	126,571
合計	7,080,587	3,071,931	4,068,816	14,221,335
セグメント損益(注)3 (営業利益)	809,812	75,628	66,466	951,908

金融収益

金融費用

税引前中間利益

	その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	連結
売上収益				
外部収益	56,169	14,150,933	—	14,150,933
セグメント間収益	—	126,571	△126,571	—
合計	56,169	14,277,504	△126,571	14,150,933
セグメント損益(注)3 (営業利益)	24,444	976,352	△414,916	561,436

金融収益 6,880

金融費用 37,426

税引前中間利益 530,889

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に不動産事業であります。

2. セグメント損益の調整額△414,916千円は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント損益は、要約中間連結損益計算書の営業損益と調整を行っております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。